

令和6年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立南小学校

【別紙1】

1 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

|    |                | 2年   | 3年   | 4年   | 5年   | 6年   | 全体   |
|----|----------------|------|------|------|------|------|------|
| 国語 | 前年度結果<br>偏差値平均 |      | 52.7 | 52.7 | 51.9 | 52.4 | 52.4 |
|    | 本年度結果<br>偏差値平均 | 51.1 | 51.4 | 50.6 | 52.1 | 50.3 | 51.1 |
| 算数 | 前年度結果<br>偏差値平均 |      | 53.4 | 53.4 | 54.3 | 52.1 | 53.3 |
|    | 本年度結果<br>偏差値平均 | 51.9 | 51.9 | 54.4 | 55   | 52.4 | 53.4 |
| 理科 | 前年度結果<br>偏差値平均 |      |      |      | 52.7 | 50.3 | 51.5 |
|    | 本年度結果<br>偏差値平均 |      |      | 50.2 | 51.4 | 47.7 | 49.8 |
| 全体 | 前年度結果<br>偏差値平均 |      | 53.1 | 53.1 | 52.7 | 51.5 | 52.6 |
|    | 本年度結果<br>偏差値平均 | 51.5 | 51.7 | 51.7 | 52.8 | 50.1 | 51.6 |

②全国学力・学習状況調査 正答率平均

| 教科             | 国語         | 算数          |
|----------------|------------|-------------|
| 前年度結果<br>(対県比) | 63<br>(91) | 62<br>(97)  |
| 本年度結果<br>(対県比) | 68<br>(99) | 67<br>(106) |

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

|  |   |
|--|---|
| 【年度当初の学力について】(NRTをうけて)<br>●国語では、話すこと・聞くこと領域において「話題に沿って話す」(4年/57%)「計画的に話し合い考えをまとめる」(6年/55.8%)、書くこと領域において「書く事柄や順序を考える」(3年/13%)「目的に応じて工夫して書く」(5年/37.4%)、読むこと領域において文章を読み感想などを伝え合う」(2年/47.9%)に課題があった。<br>●算数では、数と計算領域において「数の大小、最小の数」(2年/56%)「式の読み取り」(3年/46%)「分数のしくみ」(4年/36%)「整数と小数の仕組み」(6年/79.5%)、データの活用領域においては「表と折れ線グラフ」(5年/51.1%)に課題があった。 | 【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)<br>●国語科(情報の扱い方に関する事項の知識・技能)では、情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに(48.2%)に課題があった。<br>●国語科(話すこと・聞くことの思考・判断・表現)では、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力(60.2%)に課題があった。<br>●算数科(変化と関係の知識・技能)では、筋道を立てて考え、言葉と式を関連付けれる力、伴って変わる2つの数量関係を理解すること(45.8%)に課題があった。<br>●算数科(数と計算の思考・判断・表現)では、()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連づけて読み取ること(63.9%)に課題があった。 |
|--|---|

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

| 重点目標（何を、どの程度達成するか）  | 達成のための具体的取組（どのようにして）  | スケジュール  | 検証の指標・目標   |
|---|---|---|--|
| 【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】<br>(1)全教諭が「問いの探究」を意識した授業を実施し、全学級の児童が多様な表現方法で考えることのできる授業づくり・授業改善を行う。<br>(2)全学級で、自分の言葉でまとめや振り返りが書けるようにする。<br>(3)「伸び」の実感と意欲向上を大切にしたい「やればできる検定」を核とした、基礎学力定着への取組を全校で実施する。 | (1)(2)<br>①各学力調査(NRT、全国学力・学習状況調査)の誤答分析による実態把握と改善計画の立案<br>→全国比との差が顕著に表れている問題を解き、児童に必要な力や授業改善の視点で分析・交流を行う。<br>②研究授業・研究協議を通した「めざす授業」の共有(「改善・協議の柱」の焦点化、1人年1回以上)<br>→学年間で教材研究・授業公開をし、授業力向上に向けて意識改革を進める。<br>③授業観察を月1回継続的に実施し、全職員の授業力アップを目指す。<br>→参観シートを活用して参観、改善点を焦点化して振り返りを行う。<br>→参観シートを活用して、振り返り、まとめの共有を行う。<br>(3)<br>①各単元導入時における「既習事項の学び直し」実施<br>(授業と家庭学習とを連動させた「学びの土台づくり」・チャレンジタイムでの前学年の復習・チャレンジタイムでの表現力の向上)<br>②計算「やればできる!!」検定の定期的実施(苦手分野に焦点化を絞った反復練習)<br>③「きいてねタイム」の実施<br>(低学年を対象に、四則計算や音読に困難を抱えた児童を取り上げ、基礎学力の定着を図る) | (1)<br>① 6月・8月<br>② 5月～2月<br>③ 月1回<br>(2)<br>① 各単元前の家庭学習<br>チャレンジタイム週4回<br>② 月2回<br>③ 毎日(給食準備中) | ・全児童の各単元末テスト平均値<br>(通過率80%以上の児童の割合80%)<br>・南小アンケート<br>「多様な表現方法で考えることができる」<br>(肯定的評価80%以上)<br>・計算検定合格率(80%以上) |
| 【学級・学習集団づくり】<br>(1)全学級において「南小スタンダード」を徹底し安心安全な風土の醸成を図る。<br>(2)全学級において学習規律の徹底を図り、学級学年経営を基盤とした支持的風土の醸成を図る。   | ①Q-Uによる実態把握と改善計画の立案・共有<br>②要支援群にいる児童(NRTとのクロス集計表のD、C-1に位置する児童)との面談実施・全職員による実態の共有<br>③児童会による生活目標と学習目標の提示・各学級によるふり返りの実施<br>④児童会、委員会活動、縦割り班活動を通して6年生主体となる異学年交流の計画・実施<br>⑤全職員対象に、自らの学級経営のこだわりを語る場を作る。   | ① 6月・8月<br>② 9～10月<br>③ 通年<br>④ 通年<br>⑤ 通年  | ・ハイパーQUテストにおける学級満足度の数値<br>(全国平均以上)<br>・自己有用感に係る児童アンケート<br>「自分にはよいところがある」「よさを友達に認められている」において肯定的評価(80%以上)      |

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

|   |
|---|
| 【学力調査について】<br>(NRTをうけて)<br>●国語では書くことの領域において「同音の漢字」(6年/37%)、「目的に応じて工夫して書く」(5年/37.5%)、読むことの領域において「主題や構成を読み取る」(4年/41.2%)、「話の内容のだいたいを捉える」(3年/51.8%)、「読み返してよいところを見つける」(2年/48.8%)に課題があった。<br>●算数では図形の領域において「2つの円周の差」(6年/30%)、図形領域において「二等辺三角形の構成要素」(4年/11%)、「三角形・四角形」(3年/60.1%)、「ものの形、ものの位置」(2年/73.9%)に課題があった。<br>(全国学力・学習状況調査をうけて)<br>●国語では、「書くこと」の思考判断表現では、「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く力」に課題があった。<br>●算数では、「データの活用」の思考判断表現では、「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述すること」に課題があった。 |
|---|

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

| 重点取組(上記課題を踏まえたもの)   | 具体的方策(継続して取り組めるもの)  | 検証指標及び時期   |
|---|---|--|
| 【学力向上について】<br>・算数科における改善の視点を明確にした、子ども起点の授業づくり<br><br>・まとまった文章を書くこと<br><br>・四則計算の確実な定着 | ①深い授業研究に基づく「問いの探究と解決、R80」を視点にした授業改善<br><br>②教師用デジタル教科書の活用<br><br>③既習事項の学び直しと個別目標を設定した繰り返し学習の継続<br><br>④放課後学力補充とプリント等の直しを最後までやり切ること<br><br>⑤基礎学力の定着(2年生では、学級のくくりを外して習熟度別に5グループに分け、教職員を配置してくり上がり、くり下がり、九九の計算に取り組ませる)<br>⑥家庭学習の定着(児童会目標に設定し、全校で意識して取り組む) | ○R80自校の評価基準C以上(各学期1回)<br>○単元末テスト(国・算)80%以上(8月・2月)<br>○「自分の考えを図・式・言葉などで友達に伝えることができた」と肯定的に回答する児童の割合80%以上(8月・2月児童アンケート) |
| 【学級・学習集団づくりについて】<br>・安心できる居場所づくり<br><br>・支持的風土の醸成                                     | ①「南小スタンダード」の徹底<br><br>②生徒指導の4つの視点を生かした児童支援<br><br>③認め合える場の意図的な設定(児童同士の関わりをもたせ、自分や友達のよさに気付かせる)<br>④児童会による「ニコニコふわふわ言葉大作戦」の実施  | ○学級満足度全国平均以上(1学期2学期ハイパーQU実施)<br>○「自分にはよいところがある」「よさを友達に認められている」肯定的評価児童の割合80%以上(8月2月児童アンケート)                           |